

日本語教育研究の現状と展望

趙南星*

〈 Abstract 〉

Current Trends and Prospects of Studies on Japanese Education

The content and methods of Japanese education in Korea are changing depending on the learning environment and the diversity of learners. The research is also rapidly shifting from experimental research under controlled conditions to research suitable for realistic Japanese teaching and learning. Furthermore, the need for sharing research information is also growing. In this paper, 321 Japanese education papers (2017-2018) published in Korean academic journals and research institutes related to Japanese were reviewed in 15 research areas.

The main results are as follows:

① The ratios of teaching · learning [class (training)-related research, Etc.] (34.6%), teaching materials (10.6), discourse and sentences (9.0), acquisition (8.3), educational situation (6.4), education history (6.4), vocabulary (5.4), voice (3.2), teachers and students(3.2), evaluation (2.9), grammar (2.9), culture (2.6), The Japanese education standard (2.2), honorific language (1.5), text (1.0) are high in order by Japanese education research areas.

② As there are 143 papers in 2017 and 169 in 2018 papers, the latter has more and it is decreasing in the order of teaching materials (12 papers), education situation (8), education history (8), conversation sentences (4), The Japanese education standard (3), vocabulary (3), evaluation (1), voice (0), acquisition (0), teachers and students (0), text (-1), grammar (-1), honorific language (-2), and culture (-2).

In accordance with the learners' needs for practical language use in the future, it is hoped that more research will be done on the low percentage by the field, especially the business honorific in the honorific language, the understanding (mutual understanding) of Japanese, the evaluation of speaking and the ability to communicate in evaluation.

Field : Japanese Education

Keywords : Japanese language education research, Teaching and learning, Textbook, Discourse and sentence, Evaluation

1. はじめに

韓国の日本語教育は、学習環境および学習者の多様化に伴ってその教育内容および方法も変化している。研究も統制された条件での実験的研究から、現実の日本語教授・学習に合った研究へと速い速度で移り変わっている。そして、それらの日本語教育研究情報共有の必要性も大きくなっている。

* ハンバツ大学 教授、日本語教育

よって、本稿では韓国の日本語関連学会および研究所(〈表1〉)の学術雑誌(Journal)に掲載された論文を対象にし、日本語教育研究(2017~2018年)の現状と課題についての考察を試みる。

それらの調査結果が、日本語教育の効率的な研究と教授・学習実践の基礎資料になることを願う。

2. 研究方法

2.1 調査対象の論文

調査対象の論文は〈表1〉(「日本語関連学術誌別の論文数」)で提示した13の日本語関連研究会と6つの研究所で2017~2018年に発行された312編の論文である¹⁾。韓国日本語教育学会(21.5%)、大韓日本語日文学会(9.0)、韓国日本語教育学会(8.7)、日本語文学会(8.0)の順で論文の比率が高い。

それらのことから、大部分の学会と研究所の学術雑誌に日本語教育に関連する論文が掲載されていることがわかる。

〈表1〉日本語関連学術誌別の論文数

	学会名(設立年度) [学術誌名]	論文数 (312編)	
		(編)	(%)
学 会	1 韓国日本学会(1973.2) [日本学報]	9	2.9
	2 韓国日本語日文学会(1978.4) [日語日文学研究]	12	3.8
	3 韓国日本語教育学会(1984.7) [日本語教育]	27	8.7
	4 大韓日本語日文学会(1991.2) [日語日文学]	28	9.0
	5 日本語文学会(1992.11) [日本語文学]	25	8.0
	6 韓国日本語文学会(1995.2) [日本語文学]	22	7.1
	7 韓国日本文化学会(1996.2) [日本文化学報]	20	6.4
	8 韓国日本語教育学会(1999.3) [日本語教育研究]	67	21.5
	9 東亜細亜日本学会(1999.5) [日本文化研究]	13	4.2
	10 韓国日本語学会(1999.9) [日本語学研究]	21	6.7
	11 韓国日本近代学会(1999.12) [日本近代学研究]	13	4.2
	12 東北亜細亜文化学会(2000.7) [東北亜文化研究]	11	3.5
	13 韓国日本語文化学会(2001.5) [日本語文化]	14	4.5
研 究 所	研究所名(設立年度) [学術誌名]		
	1 中央大学校日本研究所(1979.3) [日本研究]	4	1.3
	2 東国大学校日本学研究所(1979.9) [日本学]	2	0.6
	3 韓国外国語大学校日本研究所(1990.9) [日本研究]	9	2.9
	4 高麗大学校グローバル日本研究院(1999.8) [日本研究]	3	1.0
	5 檀国大学校日本研究所(2002.1)[日本学研究]	3	1.0
6 漢陽大学校日本学国際比較研究所(2006.3) [比較日本学]	9	2.9	

2.2 調査方法

調査対象の日本語教育研究論文は、以下の(1)~(4)から求めた。

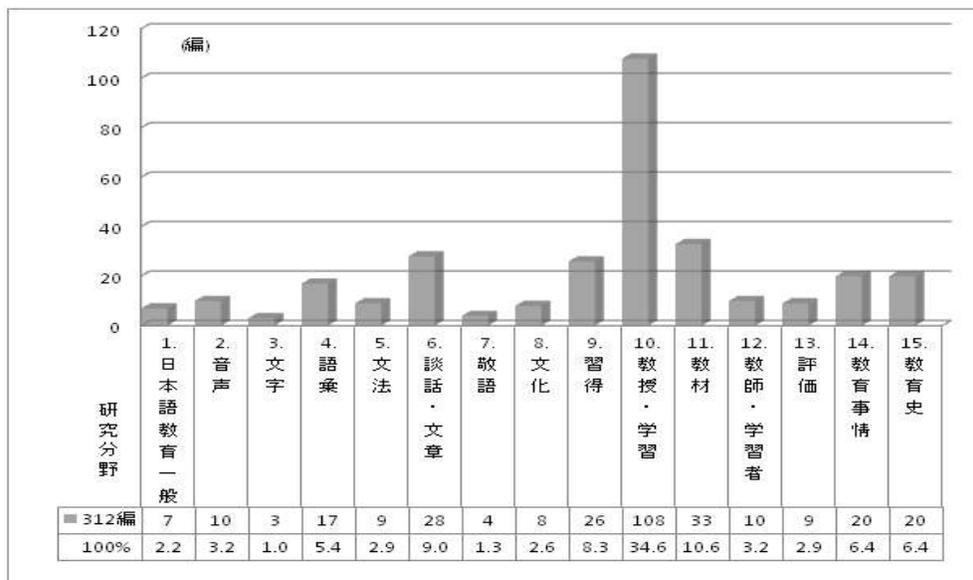
- (1) 日本語(教育)研究関連学会および研究所(〈表1〉)

1) これらは「韓国研究財団(KCI)」の登載誌論文である。

- (2) 韓国研究財団(情報システム紹介-情報サービス目録-韓国学術誌引用索引-論文検索)
- (3) 国会図書館(電子図書館-学術記事)
- (4) 学術研究情報サービス(国内学術誌論文)

2.3 分析方法

調査対象の論文は〈図1〉(「日本語教育研究分野別の論文比率」)で提示した日本語教育研究分野別に分けて記述する。これら15分野の分類において、²⁾一つの論文の内容が複数の分野にわたっているものは、重点を置いている内容の一つの分野に分類した。15の分野は1.日本語教育一般、言語要素(2.音声、3.文字、4.語彙、5.文法)、そして6.談話・文章、7.敬語、8.文化、9.習得(誤用、中間言語など)、10.教授・学習[授業(実践)関連など]、11.教材(および教科書)、12.教師・学習者、13.評価、14.教育事情、15.(日本語)教育史である。



〈図1〉日本語教育研究分野別の論文比率

3. 調査結果および考察

3.1 日本語教育の論文(2017~2018年)全体について

〈図1〉で日本語教育研究論文(2017~2018年、312編)を研究分野別にみると、10.教授・学習(34.6%)、11.教材(10.6%)、6.談話・文章(9.0%)、9.習得(8.3%)、14.教育事情(6.4%)、15.教育史(6.4%)、4.語彙(5.4%)、2.音声(3.2%)、12.教師・学習者(3.2%)、5.文法(2.9%)、13.評価(2.9%)、8.文化(2.6%)、1.日本語教育一般(2.2%)、7.敬語(1.3%)、3.文字(1.0%)の順で比率が高い。

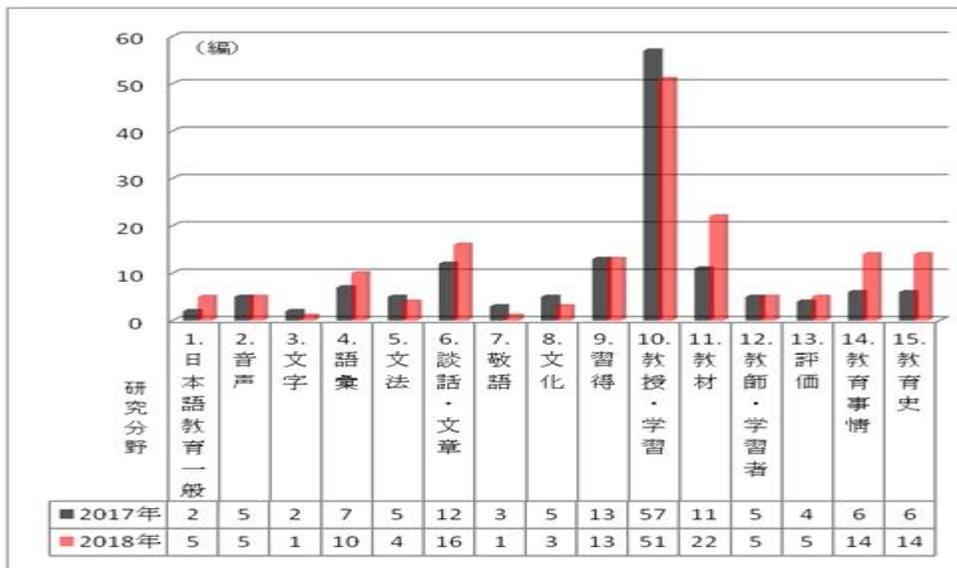
2) 趙(2012: 284~286)、小池他[編](1997)、国立国語研究所[編](2000)を参照。

ここでは、教授・学習、教材、談話・文章の分野が全体の半分以上を占めている。その中で談話・文章が言語要素である音声、文字、語彙、文法各々の比率よりも高いのは、日本語教育において対話および文章教育の重要性に起因しているものと判断される。

以下、各分野別研究の記述では特徴的な論文内容についてのみ言及し、研究対象とした論文の詳細は【資料】に分野別に提示する。

3.2 日本語教育研究分野別の2017年、2018年論文数比較

〈図2〉(「日本語教育研究分野別の2017年、2018年論文数比較」)をみると、全体の論文312編において2017年の論文は143編、2018年の論文は169編で後者が多く、11.教材(11編)、14.教育事情(8)、15.教育史(8)、6.談話・文章(4)、1.日本語教育一般(3)、4.語彙(3)、13.評価(1)、2.音声(0)、9.習得(0)、12.教師・学習者(0)、3.文字(-1)、5.文法(-1)、7.敬語(-2)、8.文化(-2)の順で増減をみせている。

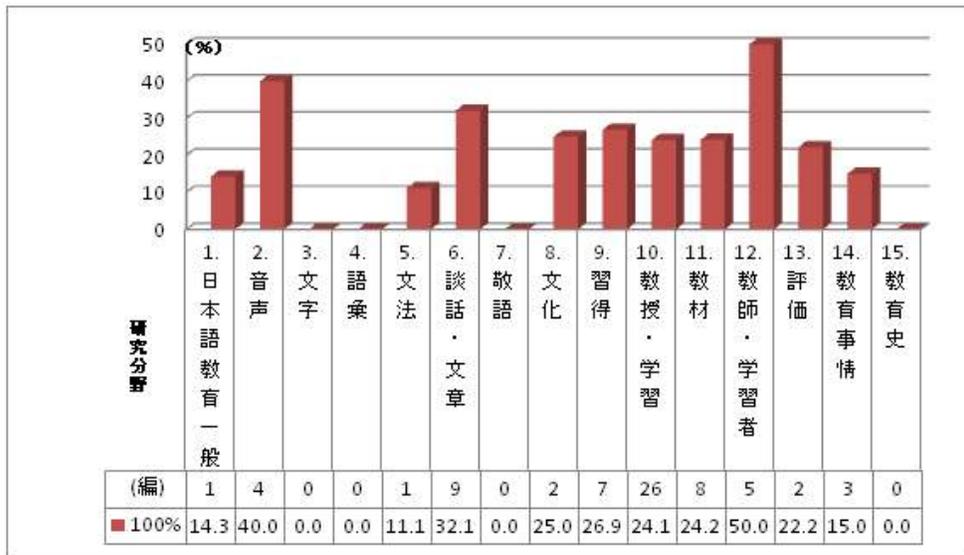


〈図2〉 日本語教育研究分野別の2017年、2018年論文数比較

3.3 日本語教育研究分野別の日本人著者比率

〈図3〉(「日本語教育研究分野別の日本人著者比率」)をみると、12.教師・学習者(50.0%)、2.音声(40.0)、6.談話・文章(32.1)、9.習得(26.9)、8.文化(25.0)、11.教材(24.2)、10.教授・学習(24.1)、13.評価(22.2)、14.教育事情(15.0)、1.日本語教育一般(14.3)、5.文法(11.1)、3.文字、4.語彙、7.敬語、15.教育史(0.0)の順で比率が高い。そして全体の論文312編において10.教授・学習(26編)、6.談話・文章(9)、11.教材(8)、9.習得(7)、12.教師・学習者(5)、2.音声(4)の順で編数が多い。

ここでは、教授・学習の分野が日本人著者の編数において最も多く、比率が高いことが分かる。



〈図3〉日本語教育研究分野別の日本人著者比率

3.4 日本語教育研究分野別の論文について

3.4.1 日本語教育一般

日本語教育一般(7編)には、CEFR³⁾と日本語能力・日本語教育、日本語教育理論と実際用法のミスマッチ、日本語教育における実践研究の可能性、複文化・複言語を射程に入れた日本語教育からのアプローチなどの研究がある。

3.4.2 音声

音声(10編)には、日本語学習者の発話に現れるイントネーション(intonation)、ピッチパターン(pitch pattern)、パラ言語情報(paralinguistic information)の傾向や特徴を考察する研究がある。外来語アクセントの65年間の変化、「すみません」の発話と知覚などを調査した論文もある。また、高校生の音声教育を目的として母音の音響音声学的分析をした論文もある。

3.4.3 文字

文字(3編)には、学習者のJLPT⁴⁾水準別漢字学習の実態、そして効果的な教育のために韓・日漢字音の子音対応について調査した研究がある。

3.4.4 語彙

語彙(17編)には、韓国人学習者のための複合動詞研究が5編(学習者用リスト作成、「名詞+づける」、学習語彙選定など)があり、類義語(聴覚形容詞、そして/それから)、接続詞、慣用句、副詞、オノマトペ

3) ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)は、外国語学習者の言語能力を評価する国際指標である。

4) JLPT(Japanese Language Proficiency Test: 日本語能力試験)は、日本語を母語としない人を対象に日本語能力を認定する試験である。

(onomatopoeia)、そして韓国語・日本語対照研究(あける・ひらく/열다·피다, 재미있다/面白い)論文が8編ある。それ以外の学習者の判断による漢字語、外来語の難易度を求める親密度(familiarity)調査論文もある。

3.4.5 文法

文法(9編)には韓国人日本語学習者の「に/で」(場所)の使用、そして「お+動詞の連用形+の+NP」、接続辞「と」、「デスク/マスク」の疑問文、授受動詞構文、「自動詞+てしまう」と「他動詞+てしまう」の話し論的使用の違い、文脈指示語(指示語こ/そ)を分析した論文がある。

3.4.6 談話・文章

談話・文章(28編)には依頼発話行為、談話における終助詞とノダ形式(そして書きことばにおけるノダ)、言いさし発話、「教室日本語」の特徴と談話構造、反復表現の談話展開機能を分析し賛否を問う意見文章、真偽疑問文(polar questions)受け答え、断りのメール文、希望・決意を表す表現(〜しようと思う/〜たいと思う)、謝罪行動、会話文における「なければならない」、紹介文での伝聞表現、依頼のストラテジー(request strategy)の対照分析、作文に表れる結束性などを分析している。そして日本語母語話者と韓国人日本語学習者の初対面会話における評価と印象、話題の導入方法、話題選択と言語的配慮、対話運営方法、自己開示後の受け手の発話などに関する研究がある。

3.4.7 敬語

敬語(4編)には、韓国人日本語学習者による言語行動の「丁寧さ」に対する認識と韓国人日本語学習者への敬語教育に関する提案、そして非規範的敬語形式、日本語教育への適用のための日本の会社員の敬語表現使用に関する論文がある。

3.4.8 文化

文化(8編)には、日本語学習者にみられる日本・日本語のイメージ、そして韓・日両国での外国人政策・在住外国人の類型と言語教育に関する研究がある。伝統文化体験と文化活動の実践報告もある。

3.4.9 習得

習得(26編)は習得15編、誤用8編、中間言語3編に大別される。推量表現(そうだ・ようだ・らしい)(ようだ・みたいだ)、感情表現、接続助詞(から・ので)、音韻、仮定・条件表現、テ形、語頭有声破裂音、ザ行音とジャ行音などの習得関連研究がある。ここには継承日本語における条件表現、連体修飾節の習得研究もある。そして誤用には清・濁音の知覚、表現文の接続、(誘導)副詞、場所の助詞(に・で)、ナ形容詞、中間言語にはノダ、条件表現、「から・ので」の研究がある。

3.4.10 教授・学習

教授/学習(107編)にはブレンディッド・ラーニング(Blended Learning)(8編)、反転学習(Flipped Learning)(5編)、ピアラーニング(Peer Learning)(2編)、課題解決型学習(Project-Based Learning)(2編)、自己省察基盤学習(Self Reflection Note)、スキーマ(scheme)・ストーリーテリング(story telling)を導入した授業関連研究があり、それ以外の授業での、または授業のための多様な方法[ジグソー学習法(JIGSAW

learning method)など]を利用した研究(15編)がある。また、多様な方法を利用した、または何らかの教育のための日本語授業実践関連研究(21編)がある。言語要素[発音、文字(ひらがな、漢字、漢字音)、語彙(イディオム)、文法(活用語、受身文、「マス形+ながら」など)]と言語技能(作文など)、そして文化、生活経験表現、翻訳、(待遇)コミュニケーションなどの指導法に関する研究(26編)、その他教授・学習に関連した(教育内容、教育方法に対する認識・評価そして可能性の模索、教育方法提示および事例研究)多様な研究(26編)がある。

3.4.11 教材

教材(33編)は、高校の日本語教科書を対象にした論文13編、それらの教科書以外の教材内容関連研究8編、教材(上級会話、新聞社説など)開発関連研究5編、メディア(media)関連研究6編、その他1編に分類される。高校の日本語教科書を対象に文化紹介欄の課題、政治的内容、発話活動、ジェンダーフリー(gender-free)の条件と可能性、単元評価、「れる・られる」、終助詞(ね/よ)、形容詞活用表の変遷過程、意思疎通機能、受納態文の構造、述語文、ストレートな表現などを分析している。高校の日本語教科書以外の教材では、日本語教科書にみられる韓国イメージ、初級日本語教材の普通体表現文型提示、高校日本語教材の文法用語、ビジネス日本語教材にみられる敬語の誤用、ビジネス日本語教材(BJT日本語能力テスト)の一考察、「意思疎通基本表現」にない表現などがある。そして韓国語字幕とマルチメディア・コーパス(multimedia corpus)、(音声認識)アプリケーション(application)、クラウドコンピューティング(cloud computing)、SNS(Social Network Service: ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などを活用した研究がある。

3.4.12 教師・学習者

教師・学習者(10編)には、予備日本語教師関連研究と教育課程理論に基づく日本語教師の役割、そして学習者の学習プロセス(learning process)、学習戦略(learning strategy)、対日イメージと日本語学習動機づけ、日本語寮における韓国人学生の学習意識、教養日本語における学習者の不安要素、遠隔日本語交流会参加者の気づきと学びなどの研究がある。

3.4.13 評価

評価(9編)には、大学修学能力試験「日本語 I」の文字と発音、文法項目および難易度分析、教育課程との関係などの研究がある。そしてBJTビジネス日本語能力テストとSPOT(Simple Performance-Oriented Test: 日本語能力簡易試験)に関連する研究がある。また、日本語版リーディングスパンテスト(Reading Span Test: RST)の妥当性検証、自己評価活動における学習者の意識と評価シートの分析の研究もある。

3.4.14 教育事情

教育事情(20編)には日本語教育研究の現状と展望、中・高校日本語教育の研究、高校日本語教育の方向、ニューシルバー(new silver)の日本語教育、韓国の日本語教育における「実践研究」、韓国における日本語教育の現況と展望、中学生日本語キャンプから見る中等教育における日本語科目の現状と展望など、韓国の中・高校、大学などの全般的な日本語関連教育(または研究)の現況を知ることができる多様な研究がある。

そして、ホテル観光日本語専攻卒業生の職務遂行能力および教育課程研究、日本語学部日本語Webブ

プログラミング(Web programming)融合教科運営を通じた日本語専攻の強化事例、日本語基盤地域連携プログラムの活性化法案、日本語関連学科のカリキュラム(curriculum)分析と発展課題、日本語学部での日本語とIT融合プロジェクトメンタリング運営事例と効果などの研究もある。また、4年制大学における教養日本語科目、「教養日本語」の履修理由、大学教養日本語学習に関する研究もある。

3.4.15 教育史

教育史(20編)には韓国開化期の日本語学習書や教科書(『日語捷徑』『日話獨習』『普通学校国語読本』『尋常小学読本』『独習新案日韓對話』)の研究、明治前期の作文教育と文体、明治期読本教科書の外来語表記などの研究、日帝強制占領期の『国語読本』補充教本の活用、日本語学習書『日鮮語学教範』考察(被動と使動)、中等教育学制と日本語教育の研究がある。そして『捷解新語』断定表現と言語研究資料としての価値、『倭語類解』の日本語音注表記と語彙、『皇國文典初學』の「文法」研究がある。

4. おわりに

本稿では、日本語関連学会および研究所の2017~2018年学術論文(312編)を中心に日本語教育研究の現状について考察した。

その主な結果は、日本語教育研究分野別では教授・学習(34.6%)、教材(10.6)、談話・文章(9.0)、習得(8.3)の順でその比率が高かった。そして2017年の論文は143編、2018年の論文は169編で後者が多く、教材(11編)、教育事情(8)、教育史(8)の順で増加している。

今後は実用的な言語使用を必要とする学習者の要求に伴い、分野別比率が低いものの中から、特に敬語はビジネス敬語、文化は日本(語)に対する理解(相互理解)、評価は発話および対話能力評価の研究がより多くなされればと思う。

【参考文献】

- 趙南星(2012)「교육대학원 일본어교육전공 석사학위논문 (1982~2011년)의 주제 분석」『東北亜文化研究』32 東北亜細亜文化学会 pp.283-297
- 小池清治, 細川英雄, 犬飼隆, 小林賢次[編](1997)『日本語学キーワード事典』朝倉書店
- 国立国語研究所[編](2000)『日本語教育年鑑2000年版』くろしお出版

【資料】

(以下、論文は日本語教育研究分野別に2017年、2018年に区分し、年度別に韓国人、日本人著者に分けて提示した。)

〈1.日本語教育一般〉7編(2017年:2編/2018年:5編)

李東哲・朴美琴(2017)「日本語教育理論と実際用法のミスマッチについて」『日本語学研究』54 韓国日本語

学会 pp.189~201

- 細川英雄(2017)「日本語教育における実践研究の可能性：その歴史的展開から持続可能性へ」『日本語教育研究』40 韓国日本語教育学会 pp.7-15
- 睦宗均・堤良一(2018)「第二言語習得と普遍文法の利用可能性：束縛理論を中心に」『日本学報』115 韓国日本学会 pp.63~83
- 朴江訓(2018)「한국 성인학습자의 일·영 멀티링구얼 교육 모델 구축을 위한 기반연구」『日本語文学』78 韓国日本語文学会 pp.105-126
- 李尚秀(2018)「CEFRと日本語教育」『東北亜文化研究』54 東北亜細亜文化学会 pp.199-215
- _____ (2018)「CEFRによる日本語能力の見直し」『日本語文学』80 日本語文学会 pp.131-154
- 任ジェヒ(2018)「対称詞のバリエーションをめぐる研究の現状と展望：複文化・複言語を射程に入れた日本語教育からのアプローチ」『日語日文学』80 大韓日語日文学会 pp.93-112

(2.音声) 10編(5/5編)

- 高有真(2017)「일본어 사과표현 「すみません」의 발화와 지각」『日本語文学』78 日本語文学会 pp.1-24
- 高慧禎(2017)「現代日本語の母音に関する音響分析：日本語学習者による発音の実体を探る」『比較日本学』40 漢陽大学校 日本学国際比較研究所 pp.185-198
- 安鍾順・崔英淑(2017)「일본어 모음의 음향음성학적 분석：한·일 양국의 고등학생을 중심으로」『比較日本学』41 漢陽大学校 日本学国際比較研究所 pp.385-406
- 寛山明代(2017)「日本語単語アクセントの傾向分析：日本語能力試験N5レベルを中心に」『日語日文学』73 大韓日語日文学会 pp.81-104
- 北野孝志(2017)「語尾上げ現象と助詞との共起に関する考察：日本語母語話者との対照を中心に」『日語日文学研究』100 韓国日語日文学会 pp.29-47
- 高有真・成玟珂(2018)「韓国人日本語学習者のバラ言語情報：韓国語と日本語の句頭・句末にみられる音声的特徴の比較」『日本言語文化』44 韓国日本言語文化学会 pp.109-135
- 李香蘭(2018)「日本語教育のための外来語アクセントの65年間の変化のパターン調査」『日本文化学報』76 韓国日本文化学会 pp.343-361
- 孫範基(2018)「日本語の音節構造：わたり音の位置づけについて」『日本語教育研究』45 韓国日本語教育学会 pp.59-76
- 酒井真弓(2018)「韓国人日本語学習者の自然発話における平叙文のイントネーション」『日本学報』114 韓国日本学会 pp.19-34
- _____ (2018)「韓国人学習者の日本語自然音声に現れたピッチパターンの傾向」『日本語教育研究』43 韓国日本語教育学会 pp.113-135

(3.文字) 3編(2/1編)

- 韓先熙(2017)「韓国人日本語学習者の漢字学習の実力調査：旧JLPT3,4級水準の学習者を対象に」『日本語教育』79 韓国日本語教育学会 pp.19-32
- 韓先熙・飯干和也(2017)「韓国人日本語学習者の漢字学習の実態と実力調査：日本関連学科で学ぶ旧JLPT1,2級水準の学習者を対象に」『日本語教育研究』38 韓国日本語教育学会 pp.221-237
- 李楨淑(2018)「韓国語と日本語の漢字音における子音の対応に関する考察：日本語の漢字の効果的な教育のための」『日語日文学』77 大韓日語日文学会 pp.181-191

〈4. 語彙〉 17編(7/10編)

- 權奇洙(2017) 「日韓兩國語の聴覚形容詞の研究 : 類義語における語彙教育の立場から」 『東北亜文化研究』 52 東北亜細亜文化学会 pp.367-380
- 金施恩(2017) 「한국인 일본어 상급학습자의 의견문 사용어휘 연구 : 모어화자와 품사 비교를 중심으로」 『日本語教育研究』 41 韓国日語教育学会 pp.23-39
- 金英兒(2017) 「日本語教育のための副詞研究 : JPT日本語能力試験の副詞語彙調査を通して」 『日本語文学』 75 韓国日本語文学会 pp.129-147
- 金知恵(2017) 「韓国人日本語学習者の動詞の意味のプロトタイプの考察 : 「伝える」, 「投げる」, 「忘れる」の場合」 『日本語教育』 79 韓国日本語教育学会 pp.1-17
- 李忠奎(2017) 「韓国人学習者のための日本語の複合動詞 : JPT日本語能力試験対策用のリスト作成」 『日本文化学報』 73 韓国日本文化学会 pp.89-109
- _____ (2017) 「韓国人中級学習者のための日本語の複合動詞」 『日本語教育』 82 韓国日本語教育学会 pp.167-180
- 趙南星(2017) 「일본인 대학생이 대응하는 복합동사에 관한 설문 조사·분석 : 학습 어휘 선정을 위하여」 『日本近代学研究』 55 韓国日本近代学会 pp.169-190
- 金慶恵(2018) 「日本語と韓国語の動詞の対照研究 : 日本語教育の観点から「あける」「ひらく」と「열다(jo:lda)」「퍼다(p'jɔ:da)」の意義素の抽出を目指して」 『日本語教育研究』 44 韓国日語教育学会 pp.25-42
- 金光成(2018) 「複合動詞「名詞+づける」の語形成とその動機づけ : 名詞部分が抽象的關係に属するケースを中心に」 『日本語教育』 85 韓国日本語教育学会 pp.43-58
- 金施恩(2018) 「일본어 상급 학습자의 접속사 운용 실태 연구 : 모어화자와 비교를 통하여」 『比較日本学』 44 漢陽大学校 日本学國際比較研究所 pp.233-254
- 김영란(2018) 「한국인 일본어 학습자의 어감분석을 통한 일본어 오노마토피의 특징 : 형태적 음운적 특징과 의미와의 관계」 『日本文化研究』 67 東亜細亜日本学会 pp.183-199
- 朴敏瑛(2018) 「「そして」と「それから」の意味分析 : 日本語学習者の誤用の回避を目指して」 『日本研究』 77 韓国外国語大学校 日本研究所 pp.245-268
- 劉恩聖(2018) 「일본어 표현교육을 위한 「재미있다」와 「面白い」의 대조연구」 『日語日文学研究』 104-1 韓国日語日文学会 pp.101-124
- 鄭惠卿(2018) 「日本語慣用句の效率的学習と教育のための研究 : 初中・上級日本語教材の分析を中心に」 『日本言語文化』 43 韓国日本言語文化学会 pp.159-180
- 趙南星(2018) 「일본인 대학생의 복합동사 사용에 대한 설문 조사의 분석 : -込む, -切る...의 학습어휘 선정을 위하여」 『日本文化学報』 77 韓国日本文化学会 pp.293-312
- _____ (2018) 「한국인 일본어 학습자의 한자어 친밀도에 관한 고찰」 『日本近代学研究』 60 韓国日本近代学会 pp.41-64
- _____ (2018) 「한국인 학습자의 일본어 외래어 친밀도에 관한 고찰」 『東北亜文化研究』 57 東北亜細亜文化学会 pp.171-187

〈5. 文法〉 9編(5/4編)

- 安平鎬(2017) 「「自動詞+てしまう」와 「他動詞+てしまう」의 話用論的 쓰임의 차이에 대해서 : 한국어 母語話者에 대한일본어교육적인 관점에서」 『日本学』 45 東国大学校 日本学研究所 pp.225-250
- 梁婷絢(2017) 「韓国人日本語学習者の接続辞「と」の使用実態」 『日本語学研究』 53 韓国日本語学会

pp.75-94

- 李宗恩(2017)「場所を表わす助詞「に」と「で」の使い分けの状況：韓国語日本語学習者(初・中・上級者)を対象として」『日語日文学』74 大韓日語日文学会 pp.43-62
- 이주리에(2017)「일한 번역의 문맥지시어 고찰 : 지시어 ‘こ’ ‘そ’의 학생 번역 분석을 통하여」『日語日文学研究』101(1) 韓国日語日文学会 pp.167-190
- 蔡盛植(2017)「일본어교육적 측면에서 본 「お+동사연용형+의+NP」」『日本研究』28 高麗大学校 글로벌日本研究院 pp.75-93
- 宋惠仙(2018)「일본어의 수수동사구문의 구조 및 보이스성과 모달리티성 : 일본어 교육문법의 관점에서」『日本文化研究』67 東亜細亜日本学会 pp.237-256
- 李宗恩(2018)「場所を表わす助詞「に」と「で」の使い分けの状況(2) : 韓国語日本語学習者(専攻・非専攻者)の比較・対照を通して」『日語日文学』77 大韓日語日文学会 pp.39-58
- 河在必(2018)「現代日本語の動詞条件形及び中止形の脱動詞化に関する記述的研究 : 視覚活動を表す動詞「みる」の「みれば」「みて」の形の場合」『日本語教育研究』44 韓国日語教育学会 pp.187-202
- 飯干和也(2018)「韓国語日本語学習者の作文に現れた疑問文について : [デスカ/マスカ] で終止する疑問文を中心に」『日本語教育研究』42 韓国日語教育学会 pp.85-98

〈6. 談話・文章〉28編(12/16編)

- 문양수(2017)「한국과 일본 고등학생들의 부탁 발화행위 대조 연구」『日語日文学』74 大韓日語日文学会 pp.63-79
- 梁乃允·李吉鎔(2017)「KY코퍼스의 학습자談話における終助詞とノダ形式」『日本語学研究』53 韓国日本語学会 pp.57~73
- 吳暉榮(2017)「初対面接触場面における自己開示後の受け手の発話 : 韓国語日本語学習者と日本語母語話者の会話をもとに」『日本語学研究』54 韓国日本語学会 pp.139-153
- 李舜炯(2017)「韓国語日本語学習者の言語能力別にみた「共話的反応の型」の使用実態」『日本語教育研究』39 韓国日語教育学会 pp.159-175
- 李忠奎(2017)「했어, 안했어?」類に関する一考察 : 日本語との対照も含めて」『日本近代学研究』55 韓国日本近代学会 pp.117-131
- 曹英南(2017)「教室日本語」の特徴と談話構造 : カナダの大学の日本語教育の現場から」『日語日文学研究』103(1) 韓国日語日文学会 pp.181-200
- 杉村泰(2017)「二者会話場面における日本語の『この』『その』『あの』の選択 : 日本語話者と韓国語上級日本語学習者の比較」『日本語教育』82 韓国日本語教育学会 pp.39-52
- 渋谷雅円(2017)「日本語母語話者と韓国語日本語学習者の初対面会話における評価と印象 : 日本語母語話者を中心に」『日語日文学研究』102(1) 韓国日語日文学会 pp.215-250
- 青木優子(2017)「日本語の賛否を述べる意見文の文章構造-日本人大学生と韓国語上級学習者の文段の表現特性」『日語日文学研究』100 韓国日語日文学会 pp.3-28
- 萩原左江子(2017)「日本語学習者の真偽疑問文受け答えの分析」『日本研究』71 韓国外国語大学校 日本研究所 pp.173-195
- ウィモンサラウォン、アパポーン、中井陽子(2017)「誘いの会話における言いさし発話の分析 : 日本語母語話者によるロールプレイをもとに」『日本語教育研究』40 韓国日語教育学会 pp.141-160
- 佐々木彩音(2017)「日本語の雑談における反復表現の談話展開機能 : 韓国語中級日本語学習者の使用傾

- 向」『日語日文学』74 大韓日 語日文学会 p.99-122
- 金蘭美·金庭久美子·金玄珠(2018)「韓国人日本語学習者の断りのメール文の特徴 : 読み手によい印象を与えない表現を中心に」『日本語學研究』55 韓国日本語学会 pp.3-18
- 金鍾完(2018)「한일 의뢰행동의 의뢰 스트라테지의 대조분석 : 대학생의 담화완성테스트 자료 분석을 통해서」『日本文化學報』79 韓国日本文化学会 pp.299-316
- 金惠娟(2018)「会話文における「なければならない」の意味分析」『日本語教育研究』44 韓国日語教育学会 pp.59-75
- 朴京愛(2018)「일본어의 희망·결의를 나타내는 표현에 관한 고찰 : 「~しようと思う」와 「~たいと思う」를 중심으로」『日本語教育研究』43 韓国日語教育学会 pp.99-112
- 梁乃允·李吉鎔(2018)「日本語学習者の書きことばにおけるノダ : 話しことばとの比較を通じて」『日本語教育研究』43 韓国日語教育学会 pp.153-170
- 李善玉(2018)「첫 대면 대화의 화제 도입 방법에 관한 연구 : 한국인 상급 일본어 학습자와 일본어모어 화자의 이성 간 대화를 중심으로」『日語日文学』79 大韓日語日文学会 pp.143-163
- _____(2018)「첫 대면 대화에서의 침묵극복사례에 관한 연구 : 한국인 상급일본어학습자의 대화운영방법을 중심으로」『日本文化學報』79 韓国日本文化学会 pp.371-392
- 李舜炯(2018)「韓国人日本語学習者の接触場面における発話交替時と発話途中のあいづち的反應の機能と表現形式」『日本文化研究』66 東亜細亞文化学会 pp.251-272
- _____(2018)「한국인 일본어 학습자의 청자언어행동 메카니즘 : 언어화 유형과 대인적 기능을 중심으로」『日本學報』115 韓国日本学会 pp.129-148
- 張良光(2018)「初対面自由会話における話題展開分析 : 予め共有している情報からはじまる話題展開を中心に」『日本語教育研究』43 韓国日語教育学会 pp.209-228
- 全鍾美(2018)「時間の経過に伴った自己開示の変化 : 日本語母語話者と韓国人日本語学習者の会話を対象に」『日語日文学』76 大韓日 語日文学会 pp.91-107
- 鄭賢兪(2018)「화용론적 관점에서 본 사죄행동의 상호작용에 대한 한일대조 : 물질적·신체적·정신적 피해 상황을 중심으로」『日本語教育研究』45 韓国日語教育学会 pp.145-164
- 許明子(2018)「韓国人日本語学習者の日本語母語話者との初対面会話における話題選択と言語的配慮」『日本語學研究』55 韓国日本語学会 pp.159-172
- 渋谷雅円(2018)「日本語母語話者と韓国人日本語学習者の初対面会話における評価と印象 : 韓国人日本語学習者を中心に」『日語日文学研究』107-1 韓国日語日文学会 pp.167-192
- 井ノ上佐織(2018)「韓国人上級日本語学習者の作文における結束性の考察」『日本語教育』83 韓国日本語教育学会 pp.33-48
- 田畑光子(2018)「ピア・ラーニングでの紹介文に見られる伝聞表現の分析 : 韓国人日本語学習者の使用実態」『日本語教育研究』45 韓国日語教育学会 pp.21-42

(7. 敬語) 4編(3/1編)

- 金東奎(2017)「내용에서 본 일본 회사원의 경어표현 사용 문제 : 일본어교육에의 적용을 목표로」『日語日文学研究』100-1 韓国日語日文学会 pp.229-252
- 金東奎(2017)「韓国人日本語学習者による言語行動の「丁寧さ」に対する認識 : KJ法による質的データの分析·考察」『日本言語文化』40 韓国日本言語文化学会 pp.45-67
- 김지희·姜錫祐(2017)「한일 비규범적 경어형식에 관한 일고찰 : 외국어교육학적 관점에서」『日本語學』72 韓国日本語學学会 pp.3-23

白松宗(2018) 「韓国人日本語学習者への敬語教育に関する提案 : 誰に敬意を示すか」 『日本語学研究』 55
韓国日本語学会 pp.73-89

〈8.文化〉 8編(5/3編)

金義泳(2017) 「동아시아 일본어학습자에게 보이는 일본이미지」 『日本語教育研究』 39 韓国日語教育学会
pp.23-37

_____(2017) 「일본인에 대한 일본어학습자의 의미세계」 『日本語学研究』 53 韓国日本語学会 pp.43-56

金賢廷(2017) 「韓国と日本における外国人政策と言語教育」 『日本言語文化』 41 韓国日本言語文化学会
pp.95~113

成玟珂(2017) 「일본어교육콘텐츠 공유시스템에 관한 고찰 : 다문화공생을 위한 커뮤니케이션으로서의 일본어교육」 『日本語教育研究』 39 韓国日語教育学会 pp.87-103

及川ひろえ・田辺理子(2017) 「多文化センターでの継承語及び文化活動実践報告」 『日本語学研究』 52 韓国日本語学会 pp.33-52

金義泳(2018) 「日本語学習者の目標言語への意味世界」 『日本語教育研究』 43 韓国日語教育学会 pp.25-41

金賢廷(2018) 「韓国と日本における在住外国人の類型と言語教育」 『日本言語文化』 42 韓国日本言語文化学会 pp.73-88

高草木美奈(2018) 「伝統文化体験の実践報告 : カルタと剣玉を中心に」 『日本語教育研究』 44 韓国日語教育学会 pp.93-114

〈9.習得〉 26編(13/13編)

姜蓮華(2017) 「일본어 청·탁음(淸·濁音) 지각(知覺)에 있어서의 오용 경향과 발음지도 : 미니멀 페어를 이용한 지도법을 중심으로」 『日本近代学研究』 57 韓国日本近代学会 pp.21-38

김선영(2017) 「한국인일본어학습자의 추량표현 「そうだ」「ようだ」「らしい」의 습득연구」 『日本語文学』 79 日本語文学会 pp.23-46

金榮蘭(2017) 「일본어 문말 인도네이션에 나타난 감정표현에 관한 연구 및 습득 : 부산방언 학습자를 중심으로」 『日本語文学』 77 日本語文学会 pp.39-60

金仁炫(2017) 「한국인이 틀리기 쉬운 일본어의 오용지도」 『日本語教育』 82 韓国日本語教育学会, pp.1-17

尹祥漢·崔延朱(2017) 「대규모 횡단 코퍼스에서 보이는 일본어학습자의 중간언어에 관한 비교연구 : 접속조사 「から・ので」의 습득과정에 나타나는 중간언어의 양상」 『日本学研究』 51 檀国大学校 日本研究所 pp.307-332

尹祥漢(2017) 「접속조사 「から・ので」의 습득에 관한 연구 : 학습 레벨에 따른 차이를 중심으로」 『日本研究』 73 韓國外国語大学校日本研究所 pp.195-218

李敬淑(2017) 「한국인 학습자의 일본어 음운 습득에 있어서 언어 개별성과 보편성에 관한 연구」 『日本語教育研究』 41 韓国日語教育学会 pp.119-132

趙南星(2017) 「일본어 표현 문형의 접속에서 나타나는 오용에 대해서」 『日本近代学研究』 58 韓国日本近代学会 pp.59-82

崔延朱(2017) 「日本語の仮定・条件表現習得の普遍性と特殊性に関する研究 : 大規模横断コーパスから見られる学習者のユニット形成と母語との関連について」 『日本語教育』 82 韓国日本語教育学会 pp.203-220

黄永熙(2017) 「在中朝鮮人の日本語習得環境による語彙能力の変化に関する計量的考察」 『日本語学研究』 51 韓国日本語学会 pp.165-178

- 秋葉多佳子(2017)「初級韓国人日本語学習者の誤用からみたテ形の習得様相」『日語日文学』76 大韓日語日文学会 pp.109-125
- 中島忍(2017)「韓国人日本語学習者における誘導副詞の文法的理解と誤用の一因：「かならず」「きっと」「ぜひ」「たしか」「たしかに」を中心に」『日本語学』77 日本語文学会 pp.61-80
- 吹上淳子・尹岡丘(2017)「イマージョン教育がもたらす効果的な第二言語習得：日韓国際結婚家庭の子供の短期日本学校体験を中心に」『日本語教育』81 韓国日本語教育学会, pp.29-43
- 朴美淑(2018)「일본어 부사의 오용과 지도방안에 관한 연구：한국인 초·중급 학습자를 중심으로」『日本研究』48 中央大学校 日本研究所 pp.125-143
- 梁乃允(2018)「日本語中間言語のノダの特性に関する研究」『日本語学研究』56 韓国日本語学会 pp.55-73
- 尹祥漢・崔延朱(2018)「第二言語習得の観点から見たレベルの異なる日本語学習者の文法習得の様相：「ようだ・みたいだ」の使用を中心に」『日本語文化』44 韓国日本言語文化学会 pp.137-161
- _____ (2018)「日本語の条件表現における中間言語に関する研究：学習者のユニット形成と学習レベルとの関連性について」『日本学研究』53 檀国大学校 日本研究所 pp.409-433
- _____ (2018)「제2언어습득의 관점에서 본 모어가 다른 일본어학습자의「ようだ・みたいだ」의 습득에 관한 연구：학습자 모어의 언어유형에 따른 습득 양상을 중심으로」『日本学』47 東国大学校 日本学研究所 pp.137-184
- 李宗恩(2018)「場所の助詞「に」と「で」の誤用の原因の分析：アンケート調査の結果をもとに」『日語日文学』79 大韓日語日文学会 pp.47-67
- 曹英南(2018)「한국인 일본어학습자의 ‘나형용사’의 사용양상：4개월간의 초급작문을 자료로 하여」『日本語学』79 韓国日本語文学会 pp.141-159
- 陳宗福・閔光準(2018)「한국인 학습자의 일본어 어두 유성과열음의 발음 습득 실태：자발(회화) 음성의 VOT를 중심으로」『日本語学研究』57 韓国日本語学会 pp.155-170
- 黄永熙(2018)「韓国人帰国生日本語の可能表現からみる第二言語接触史」『比較日本学』42 漢陽大学校 日本学国際比較研究所 pp.387-410
- 上野由香子(2018)「韓日国際児の日本語誤用分析」『日本語学』76 韓国日本語文学会 pp.103-128
- 川口慶子(2018)「継承日本語における条件表現習得に関する考察」『日本研究』77 韓国外国語大学校 日本研究所 pp.189~211
- _____ (2018)「継承日本語における連体修飾節の習得様相：韓日バイリンガル児童を対象に」『日本語教育研究』45 韓国日語教育学会 pp.5~20
- 藤田蘭子(2018)「韓国人日本語学習者における日本語のザ行音とジャ行音の習得について：聞き取り調査を通して」『日本文化学報』79 韓国日本文化学会 pp.433~452
- 〈10.教授/学習〉 107編(57/50編)
- 姜蓮華(2017)「음성지도법을 이용한 일본어 청·탁음(淸·濁音)의 지도 효과」『日本文化学報』75 韓国日本文化学会 pp.85-121
- 高正道(2017)「映像教材を活用した日本語授業の分析とその効果」『日本研究』74 韓国外国語大学校 日本研究所 pp.539-558
- 高慧禎(2017)「플립 러닝의 도입이 학습효과에 미치는 영향：대학 교양일본어의 전통적인 수업과의 비교를 통해서」『日本語教育』81 韓国日本語教育学会 pp.1-15
- 권연수(2017)「일본어교육을 위한 통역훈련법의 응용가능성에 관한 연구」『日本研究』27 高麗大学校 글로벌日本研究院 pp.283-314

- 權寧成(2017) 「21세기형 교수-학습법의 도입과 활용 필요성 및 일본어교육의 방향성」 『日本語教育研究』 41 韓国日語教育学会 pp.5-22
- _____ (2017) 「플립러닝의 도입과 일본어교육」 『日本語文学』 77 日本語文学会, pp.1-20
- 金光成(2017) 「プロトタイプシナリオに基づく複合動詞教育の提案」 『日本文化研究』 63 東亜細亜日本学会 pp.101-122
- 金志宣(2017) 「内省活動のデザインに向けた実践的提案 : 日本語・日本文化の授業実践における内省活動の分析から」 『日本語教育研究』 41 韓国日語教育学会 pp.41-59
- _____ (2017) 「授業実践における内省活動の検討 : 日本語・日本文化の授業を対象に」 『比較日本学』 40, 漢陽大学校 日本学國際比較研究所 pp.217-238
- 김태희(2017) 「일본어 학습자의 능동적 지식구성에 관한 연구」 『日本研究』 46 中央大学校 日本研究所 pp.127-147
- 羅油貞(2017) 「한·일 커뮤니케이션 관련 수업의 실제」 『日本語文学』 79 日本語文学会 pp.47-66
- 文主榮(2017) 「教室の外での協働と日本語学習の様相 : 共同体活動への参与観察からの考察」 『日本語教育研究』 38 韓国日語教育学会 pp.55-74
- _____ (2017) 「協動的な対話による創造的な発見のプロセス : 共同体活動への参与観察からの考察」 『日本語教育研究』 40 韓国日語教育学会 pp.83-105
- 朴江訓(2017) 「韓国の大学における日本語英語のマルチリンガル教育の試み」 『日本語文学』 72 韓国日本語文学会 pp.25-44
- 朴孝庚(2017) 「사이버대학교 일본어작문수업의 현황과 과제 : H사이버대학교 중상급 작문수업의 사례를 중심으로」 『日本語文学』 72 韓国日本語文学会 pp.45-65
- 房極哲(2017) 「SRN(Self Reflection Note)을 활용한 전공 일본어교육 : 비즈니스 일본어 수업 사례를 중심으로」 『日本語教育』 82 韓国日本語教育学会 pp.19-38
- 裴銀貞(2017) 「PBL을 적용한 일본어경어수업의 효과 분석 : 일본어 능력의 레벨차가 만족도에 미치는 영향을 중심으로」 『日語日文学』 74 大韓日語日文学会 pp.81-98
- _____ (2017) 「블렌디드러닝을 도입한 일본어경어수업의 효율성 분석 : 일본어레벨의 차이가 만족도에 미치는 영향을 중심으로」 『日本近代学研究』 56 韓国日本近代学会 pp.41-58
- 白以然(2017) 「ブラックボードを活用した協同学習の実践」 『日本語教育研究』 38 韓国日語教育学会 pp.95-111
- 孫榮奭(2017) 「초·중급 일본어 학습자를 위한 멀티미디어 코퍼스의 교육적 활용방안 연구 : 일본어 자막 탑재를 중심으로」 『日本語教育』 82 韓国日本語教育学会 pp.53-68
- 申恩淨(2017) 「학습스타일 연구에 관한 일고찰」 『日語日文学研究』 101-1 韓国日語日文学会, pp.233-247
- 辛銀真(2017) 「LMS사용에 관한 학습자 평가 : 일본어작문' 수업을 대상으로」 『日本文化研究』 64 東亜細亜日本学会 pp.161-178
- _____ (2017) 「『日本語作文』のブレンデッドラーニング : 大学LMSを使用した授業実践」 『日本語教育研究』 41 韓国日語教育学会 pp.79-97
- 安志英(2017) 「일본문화교육의 다양화를 위한 방법과 가능성 모색」 『日本文化学报』 75 韓国日本文化学会 pp.45-61
- _____ (2017) 「일본 애니메이션을 활용한 인문학 교육 사례 연구」 『日本語文学』 78 日本語文学会 pp.43-60
- 廉美蘭(2017) 「플립드 러닝(Flipped Learning)을 활용한 교양 일본어의 신수업 제안 : SNS를 활용한 수업 스타일」 『日本文化学报』 73 韓国日本文化学会 pp.111-124
- 尹岡丘(2017) 「초보학습자를 위한 '통할 수 있는 일본어'와 그 실러버스」 『比較日本学』 41 漢陽大学校 日本

- 学国際比較研究所 pp.331-348
- 尹榮珉(2017) 「웹기반 일본어 교육용 학습프로그램 'JLE Tool'에 대하여 : 어휘 용례 수집과 문장 번역 연습 활용을 중심으로」 『日本語教育研究』 40 韓国日語教育学会 pp.161-178
- 尹智鉉(2017) 「學術的文章作成指導における自己訂正の可能性 : 文の構造に関する書き手の気づきを中心に」 『日本語教育研究』 39 韓国日語教育学会 pp.121-139
- 李尚秀(2017) 「韓国における日本語の文法教育は母語話者の言語使用とどれほどずれているのか : ヴォイスを中心に」 『東北亜文化 研究』 50 東北亜細亜文化学会 pp.289-303
- 李尚秀, 金希燮(2017) 「大学における日本語の翻訳教育」 『日本語教育』 82 韓国日本語教育学会 pp.69-83
- 이선희(2017) 「한국인 일본어학습자의 이문화간 커뮤니케이션 능력 향상을 위한 수업 실천」 『日本学報』 110 韓国日本学会 pp.215-234
- 이선희·權靜·趙宣映(2017) 「교양외국어 수업에서의 개인별 학습지도 방안 고찰」 『比較日本学』 39 漢陽大学校 日本学国際比較研究所 pp.357-377
- 鄭潤靜(2017) 「文章構造を意識した日本語作文教育 : 国語教師と日本語教師の作文評価の分析から」 『日本語教育研究』 40 韓国日語教育学会 pp.195-208
- _____ (2017) 「日本語教育実践からの学び : 初級クラスにおける「個人化作文」に注目して」 『日本語教育』 80 韓国日本語教育学会 pp.33-42
- 趙大夏(2017) 「PBL 기반 일본어 `교과교재연구 및 지도법` 수업사례 연구」 『日本語教育研究』 38 韓国日語教育学会 pp.149-166
- _____ (2017) 「일본어교육에서의 ICT 리터러시 교육」 『日本語文学』 76 日本語文学会 pp.143-166
- 趙宣映(2017) 「교양일본어수업에서 Moodle의 활용 : 학습자의 개인차를 반영하여」 『日本語教育研究』 38 韓国日語教育学会 pp.167-183
- 조영희(2017) 「일본 학생 신문문을 이용한 '액티브러닝' 수업 사례 연구」 『日本文化学報』 74 韓国日本文化学会 pp.155-172
- 趙恩英(2017) 「通訳教育を受けていない学部生が歴史関連講演で行った通訳についての一考察 : 大学生キャンプでの日韓逐次通訳を事例として」 『日本文化学報』 73 韓国日本文化学会 pp.125-148
- 蔡京希(2017) 「日本語漢字教育におけるブレンデッドラーニングの授業実践報告 : 日本語漢字アプリコンテンツの満足度に関する調査結果を中心に」 『日本語教育研究』 41 韓国日語教育学会 pp.207-224
- 千仙永(2017) 「音声教育実践における実習生間の意見交換」 『日本語学研究』 52 韓国日本語学会, pp.101--120
- 최정희(2017) 「직관적으로 기억하게 하는 히라가나 교육 : 이미지와音を 연계한 교육을 중심으로」 『日本語教育』 82 韓国日本語教育学会 pp.85-104
- 崔真姬(2017) 「「ひらがな」指導に関する実践研究 : グループ活動を用いて」 『日本文化学報』 73 韓国日本文化学会 pp.149-161
- 檢校裕朗(2017) 「日本語集中教育(몰입교육)의 실천と成果 : 2014年度 Intensive Japanese Language Program での改善を中心に」 『日本学報』 112 韓国日本学会 pp.1-21
- 小松奈々(2017) 「意見交換会話における談話能力の向上を目指した会話授業 : 指導項目案と会話データを用いた授業の実践報告」 『日本語教育研究』 38 韓国日語教育学会 pp.5-22
- 倉持香(2017) 「日本語漢字の学習ストラテジーと学習者意識 : 韓国の教養日本語科目を受講する学習者を対象にして」 『日本語文学』 76 日本語文学会 pp.189-212
- 持田祐美子·伊吹早耶香(2017) 「韓国語母語話者への「マス形+ながら」の効果的な指導」 『日本語学研

- 究』52 韓国日本語学会 pp.19-31
- 尾崎ちえり(2017)「韓国の大学の日本語クラスにおける合意形成を目指した話し合い活動の試み : WEBサイト作成プロジェクトを通して」『日語日文学』74 大韓日語日文学会 pp.123-141
- 佐久間司郎(2017)「自律学習型試験対策クラス運営の実践報告」『日本近代学研究』57 韓国日本近代学会 pp.57-76
- 石塚健(2017)「韓国語母語話者の学習者を対象とした協同に対する認識の研究 : 協同作業・ディスカッションイメージ・ディスカッションスキルを中心に」『東北亜文化研究』52 東北亜細亜文化学会 pp.381-398
- _____ (2017)「韓国語母語話者を対象としたピア・ラーニングにおける学習形態の違いに対する学習者の意識 : 教室空間とグループ編成を中心に」『東北亜文化研究』50 東北亜細亜文化学会 pp.257-273
- 青木咲野加(2017)「CM作り活動の試み : 韓国人日本語学習者を対象として」『日本語文学』79 日本語学会 pp.67-82
- 岡葉子・伊達宏子(2017)「動画作成ソフトを使った2か国語プレゼンテーション授業の試み」『日本語教育研究』40 韓国日語教育学会 pp.107-121
- 石井奈保美・이정옥(2017)「漢字の「書き」の指導に対する韓国語母語話者教師のビリーフ半構造化インタビューとPAC分析による事例研究」『日本語教育』81 韓国日本語教育学会 pp.17-28
- 小松麻美(2017)「日本語学習者と楽しむ物語の創作 : 田丸式メソッドによる超ショートショートづくりをめぐる」『日語日文学研究』102(1) 韓国日語日文学会 pp.191-214
- 早沢正人(2017)「日本語学習における創作表現授業 : G・ロダリー『ファンタジーの文法』を題材に」『日本近代学研究』57 韓国日本近代学会 pp.97-113
- 권연수(2018)「퀵리슨스 통역훈련법을 응용한 일본어교수학습방법 연구」『日本研究』29 高麗大学校 글로벌日本研究院 pp.41-88
- 金東奎(2018)「日本語教育における「意識化」についての一考察 : 待遇コミュニケーション教育としての「意識化シート」を中心に」『日本言語文化』45 韓国日本言語文化学会 pp.7-30
- 金俸呈(2018)「コーパスに基づく現代日本語の受身文の統語論的な特徴および受身文の指導における活用」『日本言語文化』45 韓国日本言語文化学会 pp.31-53
- 金良宣(2018)「회화체 일본어 이디엄의 전략적 학습방안」『日本語文学』83 日本語学会, pp.25-44
- 金英兒(2018)「韓日の大学の日本語教育におけるフリップラーニングについての一考察」『日本文化学報』76 韓国日本文化学会 pp.311-325
- 김윤희(2018)「블렌디드 러닝을 적용한 관광일본어 수업의 사례 고찰 : 상위권 학습자와 중하위권 학습자의 비교 분석을 통해」『日本研究』76 韓国外語大学校 日本研究所 pp.199-219
- 김주연(2018)「韓国人 日本語 初級 学習者を 위한 어휘 교수·학습 방안 제안」『日本語文学』82 日本語学会 pp.87-106
- 金志宣(2018)「日本語授業における協働的内省活動の実践報告 : 資質・能力の育成に向けた内省活動の可能性」『日本研究』77 韓国外語大学校 日本研究所 pp.213-244
- _____ (2018)「協働活動に対する学習者の認識調査 : 日本語教育の授業実践を通して」『日本近代学研究』60 韓国日本近代学会 pp.77-94
- 김태희(2018)「생활의 경험을 표현한 수업활동 : 사회적 맥락의 활용을 위하여」『日本語学研究』55 韓国日本語学会 pp.39-54
- 김한식(2018)「새도잉에 있어서의 액센트의 정확도연구 : 통역교육의 관점에서 상급학습자를 중심으로」『日本

- 言語文化』45 韓国日本言語文化学会 pp.137-153
- 김행영·尹岡丘(2018) 「비즈니스 일본어에서 요구되는 콘텐츠」 『日本語教育』83 韓国日本語教育学会 pp.1-14
- 김희정(2018) 「일본어과 내용중심 교수학습에의 접근」 『東北亜文化研究』54 東北亜細亜文化学会 pp.179-197
- 박선주(2018) 「코퍼스를 이용한 일본어 어휘학습의 제안 : 「~의」가 붙는 어기의 요소를 중심으로」 『日本語教育』85 韓国日本語教育学会, pp.1-16
- 裴銀貞(2018) 「블렌디드 러닝을 적용한 수업의 과목별 만족도 분석」 『日語日文学』78 大韓日語日文学会, pp.93-108
- _____ (2018) 「이문화 교육 교과목에 적용한 블렌디드 러닝 교수법의 효율성 분석」 『日語日文学』80 大韓日語日文学会 pp.75-92
- 裴晋影·윤서영(2018) 「히라가나 학습용 모바일 앱에 대한 학습자 평가 및 인식」 『日本文化研究』68 東亜細亜文化学会 pp.185-205
- 孫美貞(2018) 「쓰기/말하기 통합 기능학습을 위한 초급 작문 수업 연구 : 어휘와 문법을 중심으로」 『日語日文学』75 大韓日語日文学会 pp.79-99
- _____ (2018) 「스키마, 스토리텔링을 도입한 일본어 작문 수업 연구 : 초급 작문 교재를 활용한 작문 수업과의 비교를 중심으로」 『日語日文学』79 大韓日語日文学会 pp.105-124
- 신원선(2018) 「직업일본어 교육을 위한 기반 연구」 『日本語文学』76 韓国日本語文学会, pp.147-168
- 辛銀貞(2018) 「일본어수업 블렌디드러닝 실천연구 : 교직과목 “논리와 논술”의 LMS활용」 『日本語教育研究』45 韓国日語教育学会 pp.77-93
- 廉美蘭(2018) 「교양일본어의 수업개선을 위한 기초연구 : J대학교 학습자 인식조사를 중심으로」 『日本語文学』77 韓国日本語文学会 pp.53-76
- _____ (2018) 「플립드 러닝을 활용한 대학 교양일본어 수업의 교수학습 모형 탐구」 『日本語文学』79 韓国日本語文学会 pp.91-113
- 李尚秀(2018) 「相互文化と日本語教育一言語文化学習につながる教室活動の実践分析」 『日本学研究』53 檀國大學校 日本研究所 pp.385-408
- 李琿兪(2018) 「発音に関するピラーフの変化 : 一人の韓国人日本語学習者の事例を通して」 『日語日文学』76 大韓日語日文学会 pp.145-159
- 이주리에·박혜경·상우연(2018) 「동시통역 수업의 보조도구로서의 애플리케이션 설계 : 과제 제출 및 피드백 기능을 중심으로」 『日本語教育研究』42 韓国日語教育学会 pp.99-116
- 林始恩·姜美貞(2018) 「就職のための日本語授業の方案 : O大学のk-move授業の事例から」 『日本語教育研究』45 韓国日語教育学会 pp.113-128
- 전영희·정희영(2018) 「문학텍스트를 활용한 문화소통 능력 향상을 위한 교육 방안 연구 : 설화와 신화텍스트를 중심으로」 『日語日文学』79 大韓日語日文学会 pp.165-183
- 鄭潤靜(2018) 「日本語作文教育の可能性を求めて : 小学校の国語教科書の分析を中心に」 『日本語教育』83 韓国日本語教育学会 pp.49-60
- 趙南星(2018) 「한국인 학습자를 위한 일본어 활용어의 지도법에 대한 제언」 『日本語教育研究』43 韓国日語教育学会 pp.229-243
- 趙宣映(2018) 「일본이해 과목에서 학습자 중심 수업실천 사례 보고 : 교수자 부담 경감을 생각하며」 『日本文化學報』79 韓国日本文化学会 pp.411-431
- 蔡京希(2018) 「日本語教育現場におけるBL実践とその経過から見えるもの : 日本語漢字教育におけるBL授

- 業実践追跡調査報告から」『日本語教育研究』45 韓国日語教育学会 pp.165-180
- 崔殷燦(2018)「일본어한자 읽기지도법에 관한 연구 : 융합적인 지도법의 사례를 중심으로」『日本語教育研究』42 韓国日語教育学会 pp.117-136
- 崔廷珉(2018)「複雑な漢字を対象にする日本語教授法 : 「鬱」を対象としたストーリーテリングから」『日本語教育研究』45 韓国日語教育学会 pp.181-196
- 崔真姫・趙宣映(2018)「文法能力の向上のためのシャドーイングの活用」『日本語教育研究』43, 韓国日語教育学会 pp.245-258
- 河素偵・李京哲(2018)「대응규칙(対応規則)을 통한 일본한자음지도법(日本漢字音指導法) : [ㄷ·ㅌ·ㄴ·ㄹ]을 중심으로」『日本語教育研究』45 韓国日語教育学会 pp.197-213
- _____ (2018)「대응규칙을 통한 일본한자음지도법 : ㄱ·ㅎ계열을 중심으로」『日本文化研究』65 東亜細亜日本学会 pp.325-345
- _____ (2018)「対応規則을 통한 日本漢字音指導法」『日本研究』48 中央大学校 日本研究所 pp.145~164
- 青木咲野加(2018)「デジタルストーリーテリングの制作活動がもたらす韓国入日本語学習者の意識効果」『日本語文学』83 日本語文学会 pp.147-163
- 倉持香(2018)「教養初級日本語クラスにおけるピア・ラーニングの一考察 : 学習者の学習意識の変化に焦点をあてて」『日本語教育研究』43 韓国日語教育学会 pp.5-23
- 小松麻美(2018)「翻訳文をめぐる話し合いにみるアイデアの創発 : 絵本『とべバッタ』の韓国語訳を例に」『日本語教育研究』42 韓国日語教育学会 pp.137-156
- _____ (2018)「より良い翻訳を目指した対話的な学び : 合意形成プロセスに着目して」『日本語教育研究』44 韓国日語教育学会 pp.5-23
- 小松奈々(2018)「評価の高い日本語作文における推敲過程 : 読み手としてのコメントと書き手としての修正に着目して」『日本語文化』44 韓国日本語文化学会 pp.7-26
- 佐久間司郎(2018)「SNS日本語」の授業における文章表現活動について : Facebookグループ「日本語コミュニティ」利用を通じて」『日語日文学』78 大韓日語日文学会 pp.109-126
- 沢邊裕子・中川正臣・岩井朝乃・相沢由佳(2018)「教室と社会をつなげる交流学習実践コミュニティは何を目指すのか : 外国語教育における〈拡張型交流学習〉の可能性」『日本語教育研究』44 韓国日語教育学会 pp.115-133
- 古屋憲章(2018)「大学における対話の場づくりとしての自律的日本語学習の支援 : 「わせた日本語サポート」を事例とする考察」『日本語教育研究』43 韓国日語教育学会 pp.259-278
- 中島忍(2018)「ビジネス日本語会話の授業におけるジグソー学習法の試み」『日本語文学』83 日本語文学会 pp.45-62
- 沼田浩通(2018)「日本語作文の授業に物語の創作をとり入れる試み : 外国語高校での四コマ漫画をもちいた物語創作活動の実践報告」『日語日文学』79 大韓日語日文学会 pp.87-104
- 早沢正人(2018)「物語創作と日本語教育 : 「走れメロス」の話型を用いたお話づくり」『日語日文学研究』107(1) 韓国日語日文学会 pp.149-166
- 早矢仕智子(2018)「韓国入日本語学習者と日本人大学生との交流学習実践 : 相互理解と対話を生み出す交流をめざして」『日本語文化』42 韓国日本語文化学会 pp.51-72
- 本多美保・朴蕙成(2018)「韓国の大学における中級作文授業の現況と課題」『日本語学』58 韓国日本語学会 pp.183-201

〈11.教材〉 33編(11/22編)

- 김세련(2017) 「문화소개란의 과제분석 : 현행 『고등학교일본어』 교과서를 중심으로」 『日語日文学』 75 大韓日語日文学会 pp.55-78
- 김은희(2017) 「『高等学校日本語読本』의 정치적 내용에 관한 연구」 『東北亞文化研究』 51 東北亞細亞文化学会 pp.495-511
- 金義泳(2017) 「韓國の日本語教科書にみられる韓国イメージ」 『日本言語文化』 38 韓国日本言語文化学会 pp.47-65
- 김주영(2017) 「다문화문학 교육교재로서의 재일문학 텍스트 읽기 : Focusedon “Yu-hee(由熙)” byYang-jiLee」 『日本語文学』 72 韓国日本語文学会 pp.279-297
- 裴晋影(2017) 「韓國のビジネス日本語教材の一考察 : BJT日本語能力テストに注目して」 『日本文化研究』 64 東亞細亞日本学会 pp.97-113
- 吳玟定(2017) 「고등학교 일본어교과서의 술어문 제시에 대한 고찰」 『日本学報』 110 韓国日本学会 pp.173-190
- _____ (2017) 「고등학교 일본어 교과서의 말하기 활동 분석 : 2009개정교육과정 `고등학교일본어 I`을 중심으로」 『日本語教育研究』 39 韓国日語教育学会 pp.105-119
- 이은주(2017) 「일본어교과서와 젠더프리의 조건 : 제7차 교육과정 『고등학교 日本語 I·II』를 중심으로」 『日本語文学』 72 韓国日本語文学会 pp.427-453
- 李忠奎(2017) 「韓國人のための複合動詞データベース : 現状報告と有効性の検討」 『日本語文学』 75 韓国日本語文学会 pp.149-167
- 주인원(2017) 「초급일본어교재의 보통체 표현문형 제시에 관한 개선방향 : 명사술어, 형용사술어, 동사술어의 중지형을 대상으로」 『日本語文学』 72 韓国日本語文学会 pp.67-89
- 閔陽子·이상옥(2017) 「子供のための教育用アプリケーション分析 : 日本語継承教育に活用するために」 『比較日本学』 40 漢陽大学校日本学国際比較研究所 pp.275-290
- 김세련(2018) 「고등학교 일본어1교과서의 단원평가 분석」 『日語日文学』 77 大韓日語日文学会 pp.139-161
- 김창남(2018) 「고등학교 일본어교과서의 ‘れる·られる’의 취급 현황」 『日本文化学報』 77 韓国日本文化学会 pp.219-230
- 孫榮奭(2018) 「한국어자막과 멀티미디어 코퍼스를 활용한 일본어교육 방안」 『日本語教育』 83 韓国日本語教育学会 pp.15-31
- 孫仁淑(2018) 「2007개정 교육과정 고등학교 일본어 교과서 I·II에서의 종조사 ‘ね’와 ‘よ’ : 교과서 분석을 중심으로 애니메이션에서의 쓰임과 비교」 『日本語文学』 81 日本語文学会 pp.101-120
- 吳秀文(2018) 「新聞社説の教育的価値 : 外国人日本語学習者において」 『日本語文学』 83 日本語文学会 pp.201-218
- 李恩珠(2018) 「젠더프리의 가능성 연구 : 2009개정교육과정 『고등학교日本語 I·II』를 중심으로」 『日本語文学』 76 韓国日本語文学会 pp.339-359
- 李敬淑(2018) 「음성인식 어플리케이션을 활용한 일본어 음성교육 방안 연구」 『日本語教育』 85 韓国日本語教育学会 pp.29-42
- 이현진·권희주(2018) 「클라우드 컴퓨팅을 활용한 일본어 음성수업 설계 및 효과 분석 연구」 『日本語教育研究』 44 韓国日語教育学会 pp.155-170
- 張根寿(2018) 「일본어 형용사 활용표의 변천 과정에 관한 고찰 : 고등학교 일본어 I 교과서를 대상으로」 『日本語教育研究』 45 韓国日語教育学会 pp.129-143
- _____ (2018) 「고등학교 일본어 교재의 문법용어 분석과 제언 : 『EBS수능특강일본어 I』을 대상으로」 『日本

- 語教育研究』40 韓国日語教育学会 pp.179-193
- 趙南星・船橋瑞貴(2018)「日本語の教科書のストレートな表現」『日本近代学研究』62 韓国日本近代学会 pp.181-194
- _____ (2018)「韓国のビジネス日本語教材にみられる敬語の誤用」『日本語学研究』58 韓国日本語学会 pp.151-163
- 趙恩英(2018)「日本語能力試験対策用の教材に見られる副詞の出現傾向について」『日本語文学』76 韓国日本語文学会 pp.185-203
- 千昊載(2018)「일본어 학습교재 집필의 이론과 실제 : 중급 독해 교재를 중심으로」『日本語教育研究』44 韓国日語教育学会 pp.171-186
- 黄順花(2018)「2009改定教育課程の高校の日本語教科書における受納態文の構造 : 『日本語 I』 『日本語 II』 を対象に」『日語日文学』77 大韓日語日文学会 pp.123-138
- 金子るり子(2018)「メディア研究」を取り入れた日本語授業デザインの試み : 2015~2017年の実践事例を中心に、『日本語教育』84 韓国日本語教育学会 pp.1-15
- 坂口清香(2018)「上級会話授業における教師コメントの分析 : 上級会話の教科書作成に向けた取り組み」『日本語学研究』58 韓国日本語学会 pp.27-44
- 中井陽子・大場美和子・尹智鉉(2018)「『文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がり軌跡 : 研究から実践まで』の教材としての特徴 : 開発プロセスと作成の意義」『日本語教育研究』44 韓国日語教育学会 pp.77-92
- 奈呉真理(2018)「EBS教材に見られる『意思疎通基本表現』にない表現 : 『修能特講』 『修能完成』 日本語 I に関して」『日本文化研究』68 東亜細亜日本学会 pp.113-134
- 松下由美子・西花恵子・坂本正(2018)「日本語教育ならびに日本語習得研究におけるSNSの活用 : これまでとこれから」『日本文化学報』77 韓国日本文化学会 pp.233-250
- 持田祐美子(2018)「教材作成から得られる学術および教育的視点の一例 : 作文テキスト『일본어 작문 코칭』を例として」『日本語学研究』57 韓国日本語学会 pp.57-72
- 渡辺美知子(2018)「高等学校の日本語教科書に見られる意思疎通機能の分析 : 2009改定教育課程の教科書『日本語 I』を中心に」『日本語教育』80 韓国日本語教育学会 pp.1-18

〈12.教師・学習者〉10編(5/5編)

- 김경희(2017)「한일 제2언어 학습자들의 학습전략 사용 실태 고찰」『日本語文学』75 韓国日本語文学会 pp.89-108
- 元智恩(2017)「Aokiの教育課程理論に基づく日本語教師の役割」『日本文化研究』62 東亜細亜日本学会 pp.157-170
- 崔殷嫻(2017)「予備日本語教師の授業に現れたPCK研究」『日本文化研究』64 東亜細亜日本学会 pp.315-331
- 中井陽子・高田光嗣(2017)「大学院での日本語教師養成における「研究と実践の連携」の意識化 : ピア・リーディング活動を通じた留学生受講生の学び」『日本語教育研究』40 韓国日語教育学会 pp.63-81
- 本多美保(2017)「教養日本語における学習者の不安要素 : 母語話者教師と非母語話者教師を対象として」『日本研究』44 中央大学校日本研究所 pp.185-205
- 金元正(2018)「対日イメージと日本語学習動機づけ : 韓国人日本語学習者及び日本関連専攻者の減少と関連して」『日語日文学研究』105(1) 韓国日語日文学会 pp.103-125

- 崔殷嫻(2018) 「예비일본어교원의 자유학기제 참여에 대한 평가」 『日本文化研究』 66 東亜細亜日本学会 pp.287-309
- 杉本加代子・滝口恵子・李承珉(2018) 「日本語寮における韓国人学生の学習意識 : 日本人ルームメートの評価と合わせて」 『日本語文学』 83 日本語文学会 pp.123-146
- 本多美保(2018) 「韓国人上級日本語学習者の学習プロセス : 学習者へのインタビューを通して」 『日本文化研究』 65 東亜細亜日本学会 pp.347-367
- 松浦恵子(2018) 「遠隔日本語交流会参加者の気づきと学び : 対面での交流会との比較結果から」 『日本文化学報』 76 韓国日本文化学会 pp.327-342

〈13. 評価〉 9編(4/5編)

- 金玄珠(2017) 「용지 SPOT과 웹 SPOT에 대한 학습자의 감상 : 대학의 전공일본어 클래스에서의 활용사례를 중심으로」 『日本研究』 73 韓国外国語大学校 日本研究所 pp.219-240
- 呉玟定(2017) 「수능 일본어 I 의 문법 문항 분석 연구 : 문법의 3요소를 중심으로」 『日本学報』 113 韓国日本学会 pp.67-88
- _____ (2017) 「수능 일본어 I 의 문법 항목 및 난이도 분석」 『日本語教育研究』 41 韓国日語教育学会 pp.99-117
- 奈呉真理(2017) 「教育課程と大学修学能力試験「日本語 I」の連係 : 「意思疎通基本表現」と「基本語彙」に関して」 『日本語教育研究』 40 韓国日語教育学会 pp.45-61
- 裴晋影(2018) 「BJT비즈니스일본어능력테스트의 내용에 대한 고찰」 『日本近代学研究』 62 韓国日本近代学会 pp.195-212
- 李尚秀(2018) 「言語活動を表すCAN-DO能力記述文の分析と実践研究」 『日本語教育』 85 韓国日本語教育学会 pp.81-97
- 趙大夏(2018) 「대학수학능력시험 일본어 I 의 문자와 발음 문항 분석」 『日本語文学』 80 日本語文学会 pp.203-222
- 주인원(2018) 「제2언어로서의 일본어판 읽기 폭 검사의 타당성 검증 : 한국인 일본어 학습자를 대상으로」 『日本語文学』 82 日本語文学会 pp.255-272
- 長島倫子・柿内良太(2018) 「自己評価活動における学習者の意識と評価シートの分析 : 教科書を用いる一斉授業の韓国人中級日本語学習者を対象に」 『日本語教育研究』 43 韓国日語教育学会 pp.79-98

〈14. 教育事情〉 20편(6/14편)

- 金玄珠・工藤恵利子(2017) 「「教養日本語」の履修理由についての一考察 : 韓国の4年制大学の非専攻学習者を中心に」 『日本語教育研究』 40 韓国日語教育学会 pp.27-43
- 이선희(2017) 「대학 교양 일본어학습에 관한 기초조사 : 서울소재 S대학의 교양 일본어학습자를 중심으로」 『日本近代学研究』 58 韓国日本近代学会 pp.83-96
- 이효선(2017) 「호텔관광일본어전공 졸업생의 직무수행능력 및 교육과정 요구에 관한 연구」 『日本語教育』 80 韓国日本語教育学会 pp.19-32
- 정태준(2017) 「일본어학습과 경제적 동기에 대해서 : 후쿠오카 외국인 유학생 조사를 통하여」 『東北亜文化研究』 52 東北亜細亜文化学会 pp.417-433
- 조치영(2017) 「일본어학부 일본어웹프로그래밍 융합교과 운영을 통한 일본어전공 강화사례」 『日語日文学』 74 大韓日語日文学会 pp.143-161

- 早矢仕智子(2017) 「日本語教育研究の現状と展望」 『日本語学研究』 51 韓国日本語学会, pp.67-77
- 金庸珏(2018) 「일본어 기반 지역연계 프로그램의 활성화 방안 연구」 『日語日文学』 80 大韓日語日文学会 pp.59-73
- 金恩廷(2018) 「중·고등학교 일본어 교육에 관한 고찰 : 논문주제(2007~2016)를 중심으로」 『日本語文学』 80 日本語文学会 pp.19-34
- 金義泳(2018) 「일본어 관련 학과의 커리큘럼 분석과 발전과제 : A대학의 사례를 중심으로」 『日本学報』 115 韓国日本学会 pp.45-61
- 金周訓(2018) 「ニューシルバーの日本語教育に関する一考察 : 学習者の環境とニーズ調査」 『日本語文学』 81 日本語文学会 pp.41-60
- 김현희(2018) 「한국 시각장애학교의 일본어교육 실태 연구 : 시각장애학교의 중·고등부 일본어 학습자를 대상으로」 『日本語教育研究』 43 韓国日語教育学会 pp.63-78
- 盧娃鉉(2018) 「韓国の日本語教育における「実践研究」の動向『日本語教育研究』に見られる量的・質的变化を中心に」 『日本語教育研究』 42 韓国日語教育学会 pp.37-50
- 尹岡丘(2018) 「앞으로의 고등학교 일본어 교육의 방향」 『日本語教育』 85 韓国日本語教育学会, pp.17-28
- 李尚秀(2018) 「韓国の日本語教育における複言語・複文化能力育成を目指す試み」 『東北亜文化研究』 56 東北亜細亜文化学会 pp.163-178
- 趙南星(2018) 「한국의 한국어와 일본어 관련 대학원에서의 일본어 모어화자 학위논문(1980~2017년)의 주제 분석」 『東北亜文化研究』 55 東北亜細亜文化学会 pp.177-191
- 趙恩英(2018) 「4年制大学における教養日本語科目について : 大邱所在のK大学の「生活日本語会話」を事例に」 『日本文化学報』 78 韓国日本文化学会 pp.23-42
- 조치영(2018) 「일본어학부에서의 일본어와 IT융합 프로젝트멘토링 운영 사례와 효과 연구」 『日語日文学』 78 大韓日語日文学会 pp.145-164
- 蔡京希(2018) 「韓国における日本語教育の現況と展望」 『比較日本学』 43 漢陽大専校 日本学国際比較研究所 pp.55-74
- 秋葉多佳子·坂口清香(2018) 「海外日本語教育実習における運営上の課題 : 韓国における教育実習の事例をもとに」 『日本語教育研究』 42 韓国日語教育学会 pp.51-66
- 小野里恵(2018) 「中学生日本語キャンプから見る中等教育における日本語科目の現状と展望」 『日語日文学』 76 大韓日語日文学会 pp.127-144

<15.教育史> 20編(6/14編)

- 朴才煥(2017) 「「捷解新語」の言語研究資料としての価値について : 韓国内の日本語研究史を中心に」 『日本近代学研究』 58 韓国日本近代学会 pp.7-26
- 장미경·김순전(2017) 「朝鮮總督府 編纂 初等教科書에 表象된 台湾 : <지리> <일본어> 교과서를 중심으로」 『日本語教育』 81 韓国日本語教育学会 pp.131-146
- 韓中瑄(2017) 「韓国開化期 日本語 学習書『日語独習』에 관한 考察」 『日本研究』 74 韓国外国語大専校 日本研究所 pp.593-612
- 호규진(2017) 「왜어유해 어휘의 성격 : 접해신어 개수분과의 비교를 중심으로」 『日本学報』 112 韓国日本学会 pp.87-106
- 黃雲(2017) 「韓国開化期の日本語教育に関する考察 : 日本語学習書による日本語教育の成立を中心に」 『日本語文学』 72 韓国日本語文学会 pp.175-193
- 朱美宣(2017) 「1910年代国語(日本語)教科書についての一考察 : 『普通学校国語読本』と『尋常小学読本』

- を中心に」『日本言語文化』39 韓国日本言語文化学会 pp.103-115
- 김광식(2018) 「제1차 조선교육령기 『국어독본』 보충교본의 활용과 식민지 교육」 『日本語文学』77 韓国日本語文学学会 pp.191-212
- 金恩希(2018) 「탈식민지 시대의 일본어교육 연구」 『日本語教育研究』44 韓国日語教育学会 pp.43-58
- 朴孝庚(2018) 「메이지 전기의 작문 교육과 문체」 『日本語文学』76 韓国日本語文学学会 pp.27-48
- 成玬珂(2018) 「개화기 한국의 일본어교육 콘텐츠 : 일어잡지사 『독습신안일한회화』」 『日本語教育研究』43 韓国日語教育学会, pp.137-151
- 宋淑正(2018) 「일제강점기 조선총독부 발행 국어(일본어)독본에 관한 서지학적 고찰」 『日本語學研究』58 韓国日本語学会 pp.45-61
- _____ (2018) 「일제강점기 조선과 대만의 중등교육 학제와 일본어 교육에 관한 연구」 『日本文化學報』78 韓国日本文化学会 pp.5-22
- _____ (2018) 「메이지기 독본 교과서의 외래어표기에 관한 고찰」 『日本語文学』76 韓国日本語文学学会 pp.65-83
- 유수연(2018) 「일제강점기 일본어 학습서 『日鮮語学教範』에 대한 일고찰 : 피동과 사동을 중심으로」 『日本語文学』82 日本語文学学会 pp.133-154
- 尹榮珉·金鎮雄(2018) 『皇国文典初学』의 「文法」: 『日本小文典』と 『日本文章法初歩』との比較を中心に」 『日本言語文化』43 韓国日本言語文化学会 pp.89-104
- 이동욱(2018) 「『捷解新語』 단정표현 연구」 『日本語文学』83 日本語文学学会 pp.243-264
- 趙来喆(2018) 「日本語史における音韻變化の考察 : いかに日本語教育に役立てられるか」 『日本語文学』76 韓国日本語文学学会 pp.49-63
- 호규진(2018) 「『倭語類解』의 日本語音注表記」 『日本語文学』80 日本語文学学会 pp.267-288
- 黃永熙(2018) 「일본어 부정표현의 변이형을 통해 본 제2언어접촉의 역사」 『日本語教育研究』45 韓国日語教育学会 pp.215-229
- 黃雲(2018) 「韓国開化期の日本語学習書 『日語捷徑』(1895)について」 『日本文化學報』78 韓国日本文化学会 pp.153-168

〈 요지 〉

일본어교육 연구의 현황과 전망

한국의 일본어교육은 학습 환경 및 학습자의 다양화에 따라서, 그 교육 내용 및 방법도 변화하고 있다. 그 연구도 통제된 조건에서의 실험적 연구에서 현실의 일본어 교수·학습에 맞는 연구로 빠르게 옮겨가고 있다. 나아가 이에 따른 연구 정보 공유의 필요성도 커지고 있다. 이에 본고에서는 한국의 일본어 관련 학회 및 연구소의 학술지에 게재된 일본어교육 논문(2017~2018년) 321편을 연구 분야별(15개)로 살펴보았다. 그 주된 결과는 다음과 같다.

① 일본어교육연구 분야별로 教授·學習[수업(실천) 관련 연구 등](34.6%), 教材(10.6), 談話·文章(9.0), 習得(8.3), 教育事情(6.4), 教育史(6.4), 語彙(5.4), 音声(3.2), 教師·學習者(3.2), 評價(2.9), 文法(2.9), 文化(2.6), 日本語教育一般(2.2), 敬語(1.3), 文字(1.0) 순서로 비율이 높다.

② 2017년 논문은 143편, 2018년 논문은 169편으로 후자가 많으며, 教材(11편), 教育事情(8), 教育史(8), 談話·文章(4), 日本語教育一般(3), 語彙(3), 評價(1), 音声(0), 習得(0), 教師·學習者(0), 文字(-1), 文法(-1), 敬語(-2), 文化(-2) 순서로 증감을 나타내고 있다.

앞으로는 실용적인 언어 사용을 필요로 하는 학습자의 요구에 따라서, 분야별 비율이 낮은 것 중에서, 특히 敬語는 비즈니스 경어, 文化는 일본(어)에 대한 이해(상호 이해), 評價는 말하기 및 대화 능력 평가의 연구가 좀더 이루어졌으면 한다.

논문 분야 : 일본어교육

키워드 : 일본어교육연구, 교수·학습, 교재, 담화·문장, 평가

■ 조남성(趙南星)

한밭대학교 교수

chons@hanbat.ac.kr

- 投稿日 : 2019년 1월 5일
- 審査開始 : 2019년 1월 14일
- 審査完了 : 2019년 1월 28일
- 掲載確定 : 2019년 2월 11일